

佳作

熱い思い

京都府 京都産業大学附属高等学校一年 橋本 真奈

私には、中学の卒業式の前日に感動したことがありません。それは、私にとって一生忘れられないであろう思い出となりました。普通であれば卒業式に今まで一緒に過ごしてきた仲間とお別れになるということで泣くと思います。しかし、私とその前日に感動して泣いたということは普通とは少し違ったのかなと今となっては思っています。

私になぜ感動したのかというと、この学年でこの先生方で良かったと思えたからです。実は、卒業式の前日、三年生を送る会がありました。私は三年生だったので送られる立場だったのですが、その送る会の間ではまだ明日自分達が卒業するという実感はまだありませんでした。しかし、その送る会が終わってから私の学年は体育館に集められました。そして、最後の学年集会が行われました。学年集会は普段から何回もあったのですが、その時だけはみんないつもと雰囲気の違いがありました。そして、始まった学年集会。まずは、生徒達から先生へメッセージ

一つの歌詞を大切に、一生懸命歌われていると思います。それは私たちにこれから高校生になり、やがて大人になっていくことを応援するような気持ちで歌ってくださいと思っているのだと思います。そして、私たちにその思いが伝わるように精一杯歌ってくださいました。その姿を見て私は感動し、この時の先生方みたいに、誰かのことを、本気で心から応援する姿は、とてもかっこいいのだと思いました。その歌だけでも、気持ちには伝わったのですが、歌の終わりに、一人の先生がピアノで伴奏をひき、先生方が一人ずつ私たちにメッセージをその場でマイクを持たずにおくってくださいました。私には、マイクを持たずに一生懸命話してくださいるところをみて、先生方の本気がよく伝わってきました。私の学年の先生は全員話してくださいだったので、その中でも私が印象に残っているのは、私たちと一緒に学校を卒業する先生の言葉です。この先生は、定年は過ぎていますが、私たちがどうしても卒業したかったため、お願いをして一年だけ長く一緒にいてくださいました。この先生は、もともと熱血の先生だったので、この時も熱く語られていました。たぶん、人一倍熱かったと思います。その先生が一番輝いているように見えました。私は、この時、このように本気で何かを伝えることができる大人になりたいと思いました。私は、普段からあまり泣くことがなく、他の人達が泣いていても私は泣いていない

をわたくししました。そして、生徒達から先生への出し物が終わった後、予想もしていなかった先生方からのプレゼントが二つありました。まず一つ目は、先生が作成してくださいだったビデオでした。そのビデオには、私達が一年生の時から三年生までの文化祭や体育祭などの、思い出がたくさん詰められていました。そして、そのビデオの最後には、一年生から三年生になるまでにお世話になった先生で離任された方からのみんなへのメッセージが入っていました。そのビデオを見せてもらった時、先生方がわざわざこの時のために長い時間をかけて、準備をしてくださっていたのだと知り、とてもうれしかったのを今でも覚えています。そして、二つ目は、先生方からの歌のプレゼントでした。私はこの日、最も感動した時だと思えます。先生方の合唱というのは、毎年、合唱コンクールの最後にあつたので、きいたことはあつたのですが、その時はもう先生の歌をきくのも最後だと思えば、寂しいという気持ちもありました。先生方の歌の曲は、レミオロメンの『三月九日』でした。私は曲名はよくきくので知っていましたが、曲自体はあまりきいたことがなく、サビの部分を知っているというぐらいでした。しかし、この曲をきいてその時の私は、何か心にぐっとくるものがあり、その時以来、私はこの曲が好きになり、今でもよく聴いています。私は、先生方が歌ってくださいしている時、どの先生も合唱コンクールの時よりも一つ

ということもよくあるのですが、この日他の人達も泣いていました。私も泣いていました。私が、この日に学んだことは、人はこんなにも本気で誰かを応援でき、それは相手にもしっかり伝わるということです。そして、私はこれに気付いた時、私もいつかはこんなことをできる大人になりたいという夢をもつことができました。高校生となった今でも私はこのことを忘れずに、毎日を過ごしており、今でもとても感謝しています。